

## (臨床研究に関するお知らせ)

### 名古屋大学医学部附属病院消化器外科2に、膵癌腹膜転移で通院歴のある患者さんへ

名古屋大学医学部附属病院消化器外科2では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご案内するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

#### 1. 研究課題名

膵癌腹膜転移に対する有効な治療法を検討するための多施設共同後ろ向き研究

#### 2. 研究責任者

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器外科学 教授 小寺 泰弘

#### 3. 研究の目的

従来の化学療法に抵抗性で予後不良な腹膜転移膵癌患者に対する治療方法に関して、腹腔内治療群(S-1+paclitaxel (PTX)経静脈・腹腔内投与併用療法、GEM+S-1+PTX 腹腔内投与併用療法、GEM+nab-PTX+PTX 腹腔内投与併用療法など)と全身化学療法治療群(GEM+nab-PTX, FOLFIRINOX, SOXIRI, SIRINOX など)の治療効果を比較することを目的に膵癌腹膜転移治療研究会の29施設で後ろ向き研究を行います。

#### 4. 研究の概要

##### (1) 対象となる患者さん

2012年11月1日から2019年12月31日までの期間中に診断された膵癌腹膜転移の患者さま。

##### (2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、性別、年齢、画像情報、治療内容、病理診断、治療後再発の有無、再発確認日、再発部位、最終診察日に関する情報です。

##### (3) 方法

中央研究機関は関西医科大学附属病院外科で約30施設の日本の施設が参加します。膵癌腹膜転移を有すると診断され治療をおこなった患者さまについて、治療前・治療後の臨床データを集めさせていただきます、より有効な治療法につき検討します。

##### (4) 研究期間

実施承認日～2022年3月31日。

#### 5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

#### 6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

## 7. 問い合わせ先

名古屋市昭和区鶴舞町 65

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器外科学 担当医師 高見秀樹

TEL : 052-744-2245 FAX : 052-744-2255

E-mail : suguru@med.nagoya-u.ac.jp